

総合教育会議 (令和4年度第2回) 会議録(議事要旨)

日時 令和4年12月26日(月) 15時～16時  
場所 久留米市本庁舎20階 第3委員会室  
出席委員 原口 新五 (久留米市長)  
井上 謙介 (教育長) 喜多村 浩司 (教育委員)  
江頭 理江 (教育委員) 御厨 千秋 (教育委員)

事務局 秦 美樹 (教育部長) 松野 誠彦 (総合政策部長)  
平田 敬一 (教育部次長) 四ヶ所 清隆 (教育振興担当次長)  
大野 浩亮 (総合政策課長) 箔谷 恵 (政策調整官)  
川上 喜美子 (学校施設課長) 渡辺 唯希 (学校施設課計画主幹)  
薄 弘典 (学教育課長) 新谷 祥生 (学校教育課指導主幹)  
古閑 昭寛 (学校教育課学校規模対策主幹)  
牧之内 洋一 (河川課長) 瀧浦 隆之 (河川課治水対策主幹)

議題(2)は非公開とすることが承認された。

### 1 開会

事務局 ただいまより、令和4年度第2回久留米市総合教育会議を開会いたします。それでは、開会にあたりまして、市長にご挨拶をお願いします。

### 2 あいさつ

市長 令和4年度第2回目の総合教育会議を開催するにあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日の議題は3つありまして、1つ目は「学校のグラウンドをはじめとする流域治水対策について」、2つ目は「小学校の小規模化への対応について」、3つ目は「不登校への対応について」を挙げさせていただいております。

私が市長に就任させていただき1年近くになります。この4年間で5度の水害が発生しており、河川の改修や浚渫等をさせて実施しておりますが、市街地には適切な貯留地が見つからない状況です。

ため池がある場所は浚渫など様々な方法がありますが、市内全域にあるのが学校のグラウンドであり、来年の8月には御井町の久留米大学のグラウンドの貯留施設が完成します。

3つ目の「不登校への対応について」は、ぜひ皆様のご意見を賜りたいと思います。よろしくお願い致します。

### 3 議題

#### (1) 久留米市立学校の施設整備について

事務局 それでは議題に入らせていただきます。「議題(1)学校における流域治水対策について」、事務局より説明させていただきます。

(事務局説明)

事務局 事務局からの説明が終わりました。  
ご意見やご質問があれば、よろしくをお願いします。

A委員 貯留施設が完成すれば、水が氾濫する恐れが少なくなるという心強い提案であると思います。学校に一時的に水を溜めるというお話をいただきましたが、水が捌けた後の衛生管理は、どこがどのように行うのかお尋ねします。

事務局 その場で降った雨しか溜めないため、他から流れてきた水は入らない仕組みとなっています。したがって、汚い水が溜まることはないと考えています。  
水が溜まった後は、自然に水が捌けていき、乾燥して利用ができるようになります。その際、グラウンドが使用できなくなることが長くならないよう、暗渠排水などの整備を一緒に行っていくことを考えています。

B委員 これまでの災害の被害を受けて、市が真摯に対応に取り組むことで、益々安心で住みやすい久留米になれば良いと思います。

グラウンドの整備については、保護者の皆さんが危険や不安を感じることがあるかと思しますので、水が溜まった後の話も踏まえて、しっかりと説明をしていただきたいと思います。

市長 50cmまでしか水を溜めないというのは、安全上の問題を踏まえているということでした。

## (2) 久留米市立学校小規模化への対応について

「議題(2)久留米市立学校小規模化への対応について」は、非公開で協議が行われた。

## (3) 久留米市における不登校等への対応について

事務局 「議題(3)久留米市における不登校等への対応について」、事務局より説明させていただきます。

(事務局説明)

事務局 事務局からの説明が終わりました。  
先月の教育委員会定例会で不登校児童生徒が増えているという統計上の報告をさせていただきました。その際、どのような対応を考えているのかというご質問をいただいておりますので、今回その対応として、調整中ではございますが議題として挙げさせていただきました。

それでは、皆様からご意見やご質問があれば、よろしくをお願いします。

## A委員

不登校は根深い問題で、保護者だけでは解決できないものであると思っています。資料の「2 増加する要因」についてですが、私の子が不登校の子と毎日LINEでやり取りをしています。グループになりますので、学校の多くの友人と不登校の子は毎日やり取りをすることができますし、学校の情報も入ってきます。言い換えれば、学校に行かなくても学校の状況や流行などには敏感に反応できます。学校の外で会うこともできますので、言ってしまえば寂しくないと思います。先ほど説明があったメタバースは、良いアプローチ方法であると思っています。学校に行きたくない子は、学校で対面のカウンセリングを受けようとは思わないので、まずはSNSから入ってアプローチをかけるなどすることが良いと思います。

## C委員

資料の3ページに、「不登校等は問題行動ではなく、教室への復帰だけを目標とせず、子どもが自らの進路を主体的に考え、社会的な自立を目指すようにすることが重要です。」という記載がありますが、これは非常に大きな転換であると思います。その中で何ができるかを考えたときに、学校に来ることが厳しいという子どもに何ができるのかを考えることは重要であると思います。

資料の中に「学校への忌避感」という記載がありましたが、これは学校の組織だけでなく、自分が行くべき学校の建物に一步足を踏み込めないというような気持ちの子どもたちが一定いることかと思っています。久留米市では「らるご久留米」があり、その所管を子ども未来部から学校教育課へ移管することを検討していると聞いております。学校へは行けないけれど「らるご」には行けるという声もお聞きしましたので、移管することには賛同いたしますし、新たな対応をとということであれば、その組織全体の見直しを含めて、その中であり方を変えていただきたいと思います。つまり、フリースクールとまでは言いませんが、フリースクールのような形や役割を付していただくと、ここをきっかけに、小学校は無理だったけど中学校では、高校では、ということもあるかと思っていますので、検討していただきたいと思います。

## 教育長

不登校の児童生徒の皆さんは、一人ひとりその理由が異なっています。教育委員会としては、丁寧に状況を聞きながら、その子に合った対応を検討していくことが必要であると考えています。資料にもありましたが、不登校期間中に相談・指導を受けていない児童生徒がいることが非常に問題ではないかと考えておまして、しっかりアプローチをかけて繋がっていくことが大事であると思っています。なぜ、152人も繋がっていない子どもたちがいるのか、説明をしていただきたいと思います。

## 事務局

不登校の児童生徒には様々な事情があります。学校の教員や生徒指導サポーター、スクールソーシャルワーカーなどの方々と接することを拒否してしまう児童生徒がいるということです。

事情は様々でございますので、学校によっては、その一部を把握しているところもありますし、全く理由がわからない、アプローチが取れないというところもあります。

ここに何らかのきっかけを見つけ、アプローチをかけて、SNSが良けれ

ばその窓口を開く、「らるご」という窓口が良ければその窓口を開くという  
ような様々な学校以外の手段、ツールを持つことが今後の不登校対策に重要  
な面であると考えています。

教育長

教育委員会や学校からアプローチをかけても、なかなか繋がってくれない  
ところも多いので、学校だけではなく、様々な多面的なアプローチの仕方が  
必要であると思います。地域やカウンセラー、病院などの力を借りながらア  
プローチをかけて、子どもたちの実情に寄り添った対応をしていくことが必  
要であると考えています。そのためには、様々な方々の協力を得ながら進め  
ていく必要があると考えているところです。

事務局

不登校対応は、急務であると考えています。説明いたしました事業だけで  
なく、様々な取組を通じて子どもたちが社会的に自立できるようにしっかりと  
進めてまいりたいと考えています。

それでは、以上をもちまして、第2回総合教育会議を終了したいと思いま  
す。ありがとうございました。